

本会記事

APMA2023 粉末冶金国際会議報告

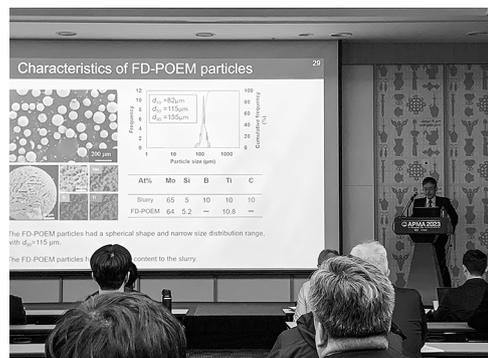
APMA2023（第6回アジア粉末冶金国際会議）が、11月27日～30日の日程で、韓国の慶州において開催されました。古都慶州は1995年にユネスコの世界文化遺産に韓国で初めて登録された仏国寺（ブルグクサ）石窟庵（ソックラム）がある街です。珍しい建造物や石仏が多く、街全体が世界遺産に登録されています。慶州も日本と同じくコロナの影響はほとんどありませんでしたが、コロナ禍以降、飛行機の便数が減り、会議の行われる慶州へのアクセスが非常に悪くなっており、結局ソウル市の金浦空港から日本の新幹線にあたるKTXで2時間、その後バスに30分揺られ目的地の慶州に入ることとなりました。朝の9時の飛行機に乗り、ホテルに到着したのは17時前、8時間の移動は、お隣の国韓国に来たとは思えない移動時間でぐったりとしてしまいましたが、直ぐにRegistrationへと向かいました。27日の午後から一部セッションがスタートし、20時からは会場近くでAPMA2023主催のWelcome beerが開催されました。Welcome beerは、日本の居酒屋さんのようなお店でしたので、講演会前の顔合わせも賑やかに行われました。ここでもコロナの影響はなく皆さんの楽しそうな顔から対面で会議の出来る大切さを再確認しました。

28日は、9時からOpening & Exhibition Tape Cuttingが行われました。Openingでは、KPMIのSoo-Wook Lee会長、KPMAのKunjin Lee会長、APMAのChiu-Lung Chu会長のご挨拶に続き、展示会場前にて、当会から園田修三会長、日本粉末冶金工業会から伊井浩会長にご出席頂きTape Cutting Ceremonyが華やかに行われ、その後APMAの加盟国6カ国からCountry Region Reportが行われました。日本は、日本粉末冶金工業会伊井会長より報告を頂き、当会が今秋開催したJSPMIC2023などについてご報告頂き、APMA2023の開幕となりました。

午後からは「The 17<sup>th</sup> (2023) APMA Board Director Meeting」がありました。対面による久しぶりの理事会です。会計報告やWORLDPM 2024の紹介に加え、次回の2025年APMAの開催地が中国に決まりました。2年毎にAPMA国際会議が開催されますが、アジアの多くの国でPowder metallurgyについて交流が持てることを期待したいと思います。

今大会は、プログラムの発表が直前であったため、どのくらいの参加があるのかと心配しておりましたが、7つのセッションに、発表件数は、一般発表52件、Poster 115件、Plenary Lecture 6件、Keynote Speech 5件、Invited Talk 13件でした。日本からは、Plenary招待講演者として東北大学野村直之先生が、“Challenges in composite Powder development and laser additive manufacturing”の講演をされ、多くの方が聴講されていました。また今回ポスター会場は展示会場の一角に設けられ大変盛況でした。多くのPoster Sessionの中から東京都市大学の高橋枝里さんがBest Poster Awardを受賞されました。協会学生会員の高橋さんが受賞されたことは私達にとっても大変喜ばしいことです。

来年は、World PM2024が2024年10月13日～17日の日程で、パシフィコ横浜で開催されます。World PM2024は、少し賑やかな場所での開催となります。会場から東京駅まで50分、横浜中華街には30分で行くことが出来ます。古都慶州とは違う横浜の街も会議と合わせて楽しんで頂ければ嬉しく思います。World PM2024は当会と日本粉末冶金工業会が共催します。現在講演募集を行っていますが、順次ご案内しますので、多くの方のご発表ご参加をお願いします。



(吉田泰子)